



■グリーンエレクトロニクス工学科Q&A

1. どのような入試があるか。

システム理工学部の「一般入試」と同様の入試方式のため、関西大学の既存の理工系学部の入試対策（過去問題）を講じることで十分に対応が可能。[共通テスト利用入試]は、4科目型[語学力重視方式]、4科目型[総合力重視方式]および4科目型[数学力・理学力重視方式]で、他学科（一部、数学科を除く）と同様の入試制度を導入している。他に総合型選抜（AO、女子特別入試）、学校推薦型選抜も実施予定。

2. 高校時代にやっておくよいことはあるか。

完璧にできる必要はないが、「数学」「物理」の基礎を強化にすることがポイント。入学後は数学や物理の基礎知識を応用して研究を行うが、いろいろな知識の点と点をつなぎながら学びを深めるため、身近な日常のことに興味を持ち、なぜだろう？ どのような仕組みだろう？ と常に考える習慣を身につけておこう。

関西大学 2026年度入試のポイント

■【一般入試】[共通テスト利用入試(併用)]

2/5・6・7は札幌から沖縄まで全国29都市で受験可能。地元で安心して関西大学にチャレンジできます。※2/1～2/4は全国14都市で受験可能。

■【一般入試】

商学部の一一般入試[全学日程2(2/5～2/7)]で3教科型【同一配点方式】を新たに導入。

■【共通テスト利用入試(併用)】

商学部の[共通テスト利用入試(併用)]を拡充。また、個別学力検査を英語のみに変更。

■【共通テスト利用入試(前期)】

外国語学部の[共通テスト利用入試(前期)]で3科目型を導入。

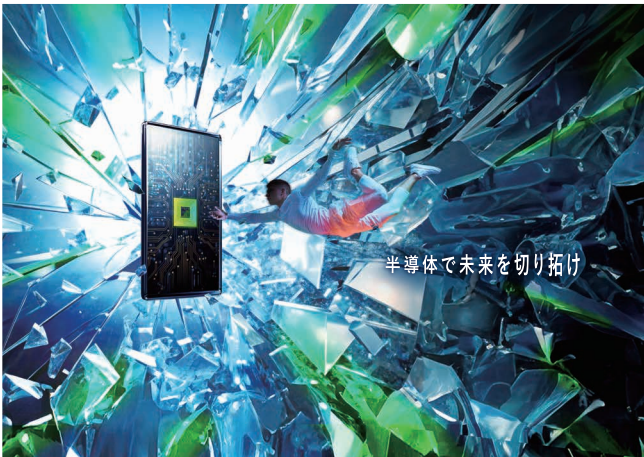
“返還義務のない”関大独自の奨学金!

「学の実化(じつげ)」

入学前予約採用型給付奨学金

関西大学では、入学試験の出願前に採用内定が決定する[返還義務のない]給付奨学金制度を実施。同奨学金に申請し、採用内定となった受験生は、一般入試・共通テスト利用入試を受験し、合格・入学することで正式に奨学生として採用されます。

申請資格を満たせば誰もが採用内定となり、給付金額は、関西圏内からの進学者が年額30万～45万円、関西圏外からの進学者が年額40万～55万円で、原則4年間(継続審査あり)の給付(返還不要)となります。



半導体で未来を切り拓け

という授業では、企業が実際に抱える課題に対して、学生が企業とともに解決策の立案などに取り組みます。また、半導体装置メーカーをはじめ、さまざまな企業から講師を招き

リー形式で行う授業もあります。140年近い歴史を持つ関西大学の約52万人に及ぶ卒業生とのネットワークや、これまでの研究などに対する社会からの信頼が、こうした学びの提供につながっています。

さらに、グローバルな素養を身につけることも同学科の目標の一つです。半導体製造で

世界をリードする台湾を訪ねし、現場を体験しながら学ぶ機会のほか、アジアや欧米の海外大学との共同研究の機会も用意しています。また、世界中の大学が集まる学会での研究発表や、ダブル・

ディグリーで関西大学と海外大学の両方の学位を取得

するプログラムなども検討しています。こうした多彩な学びを経て、4年次からは研究室に配属され、それぞれの研究に取り組みます。卒業後の進路も多様な道が拓かれ、半導体

メーカーや半導体製造機器メーカーだけでなく、電気機器メーカーでの半導体を用いた商品開発や、自動車メーカーでの自動運転やカーナビゲーションといったソフトウェア開発なども想定されます。いずれもエネルギー効率が高く環境に優しいエレクトロニクスという、同学科の学びに対するニーズが非常に大きい分野です。

関西大学システム理工学部長の梶川嘉延教授は次のように語ります。

「本学科は環境とエレクトロニクス(電子工学)の両方に興味がある人はもちろん、いずれか一方だけに興味がある人であっても、学ぶ楽しさや探究する喜びを味わえる場になっています。『環境』や『グリーン』を学ぶ学部、学科は他にもありますが、そこに『エレクトロニク

ス』を結びつけて学ぶ学科は例がないと私たちは自負しています。これまでにない新しい切り口の本学科で、ともに学べることを期待しています。」

大阪公立大学との連携により 国内外での国際的な共修体制を構築

2024年11月に、関西大学と大阪公立大学が進める連携事業「大阪・チェンジメーカーズ…課題主導の社会的インパクト共創教育プロジェクト」(Osaka Social Impact Project、以下、OSIPプロジェクト)が、文部科学省の「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業(タイプ1…地域等連携型)」に採択されました。

国際観光都市として急速に成長している大阪を拠点に、多文化共修の教育実践を通じて、次世代の社会を変革するリーダー(「チェンジメーカー」)の育成をめざします。

事業期間は2029年度までの6年間で、関西大学では全ての学部生を対象とした、異なる言語や文化を持つ学生や教員がともに学ぶ「多文



1886(明治19)年に関西法律学校として大阪の地に誕生した関西大学は現在、国内屈指の私立総合大学へと発展しています。学理と実際の調和を説いた「学の実化(じつげ)」を学是に掲げ、ますます複雑化する社会の課題解決に貢献。創立150周年を見据えた長期ビジョン「Kandai Vision 150」では「未来を問い、そして挑戦する。」を掲げ、「考動力」と「革新力」を備えた人材を育成しています。

2026年4月には、システム理工学部に「グリーンエレクトロニクス工学科」を新設します。さらに、2024年度には大阪公立大学との連携によるプロジェクト「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択されました。急激に変化する社会が必要とする教育・研究を推進しています。

関西大学

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 入試センター 入試広報グループ TEL 06-6368-1121(大代表)
https://www.kansai-u.ac.jp/nyusi

電子工学の視点から環境問題の解決に取り組む新学科を設置

関西大学は2026年4月に、学科としては日本初の「グリーンエレクトロニクス工学科」をシステム理工学部に新設します。エネルギー源を化石燃料から太陽光発電など環境に優しいものに転換し、経済社会システム全体を変革するGX(Green Transformation)に向けた取り組みがさまざまな分野で進められています。そのような中、新学科ではエレクトロニクス(電子工学)の視点からGXに挑み、環境への配慮とデジタル技術の活用両立をめざし、脱炭素社会といった持続可能な社会を実現できる、未来を創造する人材を育成します。

今や身近なものとなった生成AIは、大量の計算を短時間で行うため大規模なコンピュータ群を必要とし、膨大な電力を消費します。こうした課題に対し、性能を維持したまま電力消費を低減する技術開発などに取り組むのがグリーンエレクトロニクス工学科です。具体的には、電

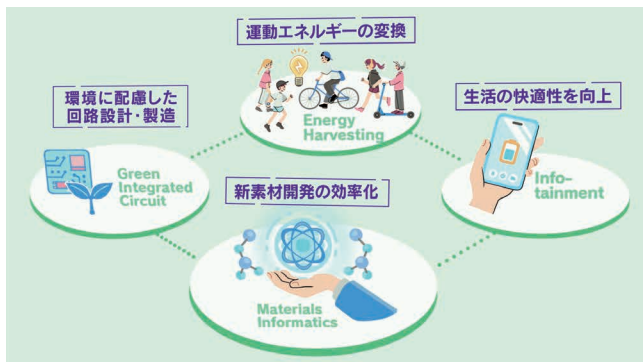
力消費の少ないソフトウェア、集積回路、さらにその材料となる半導体など、全てのフェーズにおいて高効率を追求した電子工学を学びます。特に、AIをはじめとする先端技術を根本で支える半導体に関する学びに力を入れており、GX人材の育成が期待されます。4年間の学びでは、1・2年次に数学、物理、化学を中心とした学びで基礎を固め、これらをベースに2年次から「デバイス物性」「装置・加工・計測・制御」「アナログ・デジタル集積回路」「数値計算・情報」の4つのカテゴリを学ぶカリキュラムを用意しています。

デバイス物性は「半導体を組み合わせさせてデバイスにする」とどのような性質が現れるか、装置・加工・計測・制御は「半導体デバイスをどのようにして製造するか」、アナログ・デジタル集積回路と数値計算・情報は「完成した半導体デバイスをどのように使いこなすか」に軸足を置きながら、共通して「環境に優しい」というテーマを掲げています。

少人数制によるきめ細かな指導と多彩な学びでGX人材を育てる

同学科は1学年の定員が62人(予

グリーンエレクトロニクスで広がる未来



定)。教員との距離が近く、一人ひとりの興味や目標に応じたきめ細かな教育が特徴です。実験や実習に力を入れ、学内には半導体製造に必須となる「クリーンルーム」を設置。2・3年次では、ほぼ毎週この設備を用いた実験を行います。また、プログラミング教育も充実しており、少ない消費電力で動かせるプログラムを開発するための高度なスキルを身につけるため、1～3年次には毎学期プログラミングの実習科目を設けています。

また、産学連携による実践的な学びも強みです。「産学連携PBL」

化共修科目」を設置する他、派遣・受入留学プログラムを展開していきます。OSIPプロジェクトと題した留学プログラムでは、全て多文化共修の機会が取り入れられており、語学学習や異文化体験にとどまらず、短期留学プログラムを実施中です。さらに、キャリア形成プログラムの提供なども推進し、各学部・研究科のグローバル化を積極的に支援し、促進していきます。

他にも、2025年度の夏には大阪公立大学との共同で、国内で韓国の学生と学ぶ「2025 Korean Group Summer Program in Japan」国立台湾師範大学で行う「2025 Summer Program in Taiwan」の2つのプログラムを実施。協定大学の学生とチームを作り、ディスカッションやグループワークを通じて与えられた課題に取り組み、ビジネスアイデアを英語でプレゼンテーションします。また、企業視察やフィールドワークも行い、グローバルな視点を持つ力、外国語でのコミュニケーション力、デザイン思考力、アントレプレナーシップマインドなど、これからの社会で求められるスキルを伸ばします。時代を先取りした教育、研究、社会貢献、組織運営を展開してきた関西大学。多様性の時代を先導する「考動力」と「革新力」を育む教育の実践だけでなく、急激に変化するグローバル社会に対応するための「共生力」を育む新たな取り組みにも期待が高まります。